

インフォメーション・コーナー

会 告

○農業農村工学会第44回通常総会の開催について 5月30日開催	88
○研究部会長の交代について	88
○平成23年度「研究グループ」の助成金募集について(再)申請締切6月30日	88
○平成23年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について(再)申請締切9月16日	89
○「農業農村工学会学術基金」への募金について	89
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	90
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	90
○平成24年の表紙写真の募集 春季締切6月30日	91
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	91
○PAWEES(International Society of Paddy and Water Environment Engineering)2011 Student's International Conference参加者募集について 要旨締切5月31日	92
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお祝いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	92
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお祝いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局(投稿先)のお知らせ	93
○GeoMAT2011地盤材料環境国際会議発表会第1回発表会の開催について 11月21~23日開催	93
学会記事	95

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成23年8月 25, 26日	農村計画研究部会	第33回現地研修集会	Ⓑ 未来への農業水利施設の継承	弘前市	79巻2号
平成23年9月 6~9日	大会運営委員会	平成23年度農業農村工学会大会講演会	Ⓑ	福岡市	78巻12号 79巻1,3号
平成23年11月 10, 11日	農地保全研究部会	第32回研究集会	Ⓑ 中山間地域における農地保全と耕作放棄対策	甲府市	79巻4号
平成23年11月 17, 18日	京都支部	第68回研究発表会	Ⓑ	奈良市	79巻4号

第79巻第6号予定

展望：九州地域の農業農村整備と今後の展望：雑賀幸哉

小特集：九州の地域特性に合わせた農業農村整備

- ①九州大学における農業農村工学分野の基礎・応用研究：東 孝寛ほか
- ②非硬化ジオポリマーにおける土木材料としての利用の検討：米倉英史ほか
- ③九州地域の農業農村整備について：大内 毅
- ④県民と育む「農の恵み」モデル事業：金子隆盛
- ⑤佐賀平野の地形を活かしたクリーク整備：島内利昭ほか

技術リポート

北海道支部：環境配慮検討会を設置した魚道整備事業：阿部秀人ほか
 関東支部：防災ダム富入沢地区における試験湛水の実施事例：唐澤崇弘ほか
 京都支部：市野新田ダムにおける環境配慮対策と工事実施方針：東岡秀高
 中国四国支部：開水路のエポキシ樹脂塗装のライフサイクルコストの検討：河相泰信ほか
 九州支部：ため池改修計画における設計VEの実践例：堀下 久

小講座：時間領域透過法：宮本英揮

私のビジョン：微生物代謝を利用した土の固化処理技術への挑戦：金山素平

農業農村工学会第44回通常総会の開催について

社団法人農業農村工学会定款第27条により、第44回通常総会を下記により開催いたしますので、代議員にはご出席くださるようご案内申し上げます。なお、定款第27条4項により、正会員は総会に出席して、議長の了解を得て意見を述べることができます。

議案の詳細につきましては、学会ホームページに掲載しています。

記

1. 日時 平成23年5月30日(月) 14:00~15:00
2. 場所 農業土木会館2階会議室

3. 議案
 1. 平成22年度事業報告
 2. 平成22年度収支決算
 3. 平成23年度事業計画
 4. 平成23年度収支予算
 5. 名誉会員の推挙
 6. 代議員の選任
 7. 農業農村工学会細則の改正について
 8. 公益社団法人移行申請に向けた関係書類の承認について

研究部会長の交代について

平成23年4月1日付で下記研究部会長が交代しました。

記

研究部会名 土壌物理研究部会

新部会長 塩沢 昌(東京大学大学院教授)
前部会長 登尾 浩助

平成23年度「研究グループ」の助成金募集について(再)

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度、3件以内です。

本年度の申請締切は、平成23年6月30日(木)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会HP参照)で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要な事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に40歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。この報告については、研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

注) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

平成 23 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について（再）

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度（原則 1 件 20 万円以内）です。

本年度の申請締切は平成 23 年 9 月 16 日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後 1 年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成 23 年 9 月 16 日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG 名（または部会名）
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500 字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 22 年度までに 56 件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No. 1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail : saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

学会誌を出典とした CPD 通信教育を実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD ポイント、また、通信教育で最大年間 24 CPD ポイントが取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつ CPD 個人登録者は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd>) にある参加申込書に必要事項を記入してメール (E-mail : kaito@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会への入会、また、技術者継続教育機構への登録を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限 参加は、いつからでも可能です。

3. 内容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、CPD 運営委員会通

信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成します。回答はメール (E-mail : kaito@cpd.jsidre.or.jp) で機構に送信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1.5 CPD ポイント、満点で 2.0 CPD ポイントが取得でき、CPD 個人登録者の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

5. 通信教育受講者の特典

採点結果は自動入力されますので、毎年 4 月中に取得した点数を希望者にお知らせし、5 月上旬から希望により有料で「CPD 取得証明書」を発行します。

平成 24 年の表紙写真の募集

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 24 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。平成 24 年の募集からテーマが変わりました。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第 80 巻（平成 24 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定）撮影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

春季 平成 23 年 6 月 30 日
夏季 平成 23 年 9 月 30 日

6. 審査

7. 結果発表

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。
学会誌第 80 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 24 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は（社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 79, 80 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
79巻 7号 縮小する社会における農業農村整備のかたち (仮)	公募終了
8号 若者や消費者と農業・農村のかかわり (仮)	公募終了
9号 農業土木遺構にみる技術の粋 (仮)	公募終了
10号 愛知用水通水50周年 (仮)	公募なし
11号 再生水の農業利用の動向と課題 (仮)	公募なし
12号 地球環境 (地球温暖化) 問題への取り組みと今後の課題 (仮)	公募なし
80巻 1号 農業農村工学分野におけるアウトリーチ活動 (仮)	平成23年8月25日
2号 世界的な塩害に関する動向 (仮)	平成23年9月22日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

PAWEES (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) 2011 Student's International Conference 参加者募集について

今年10月に台湾で開催される PAWEES 2011 国際会議と同時に、Student Conference が催されます。これは、学生により企画・運営される研究集会です。論文の筆頭著者、連絡先著者も学生に限ります。

発表テーマ、要旨・論文提出の締切等は、PAWEES 2011 本会議に準じます。

多くの学生の参加をお待ちします。

1. PAWEES 2011 本会議の詳細 <http://pawees.net/>
2. 原稿提出先 PAWEES students@gmail.com
3. 問合せ 近畿大学 松野 裕

E-mail: matsuno@nara.kindai.ac.jp

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発行スケジュール: 年4回 (3, 6, 8, 12月)

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお願いいたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2011年3月末にVol.9, No.1が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社のSCIE（Science Citation Index Expanded）に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIEのIF（Impact Factor）が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価を得ております。

また、世界13カ国からEditor（23名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer-Verlag社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局（投稿先）は、台湾です。なお、2010年10月1日付で、これまで編集長を勤めていただいた中野芳輔先生から、溝口 勝先生に編集長の交代がありました。

投稿先：Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No.1, Sec.4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R.O.C)

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

TEL : +8862-2-3366-3467 FAX : +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

• **Editor-in-Chief** : Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

• **Editors** 13カ国から23名

• **Editing Board** 35名

• **Managing Editors**

Chief Managing Editor : Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOBI

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Jin-Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea

出版社：Springer-Verlag社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

GeoMAT 2011 地盤材料環境国際会議発表会第1回発表会の開催について

GeoMAT 2011 地盤材料環境国際会議発表会第1回発表会（GeoMat 2011-First International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment）が本年11月に津市で開催されます。

1. **開催日** 平成23年11月21日（月）～23日（水）

2. **場所** 三重県津市 津都ホテル
（三重県津市大門7-15）

3. **主催** GeoMAT 2011 地盤材料環境国際会議発表会

4. **共催** 農業農村工学会ほか5団体

5. **募集テーマ**

• Advances in Composite Materials

• Computational Mechanics

• Foundation and Retaining Walls

• Slope Stability

• Soil Dynamics

• Soil-Structure Interaction

- ・ Pavement Technology
- ・ Tunnels and Anchors
- ・ Site Investigation and Rehabilitation
- ・ Ecology and Land Development
- ・ Water Resources Planning
- ・ Environmental Management
- ・ Earthquake and Tsunami Issues
- ・ Safety and Reliability
- ・ Geo-Hazard Mitigation
- ・ Case History and Practical Experience

6. スケジュール

- ・ 要旨提出締切 2011年 5月15日

- ・ 要旨受理通知 2011年 6月30日
- ・ Full paper 提出 2011年 8月30日
- ・ Full paper 受理通知 2011年 9月30日
- ・ 登録締切 2011年10月15日
- ・ 会議開催日 2011年11月21~23日

7. 参加申込み等

参加申込方法等の詳細は下記 HP をご覧下さい。

<http://gipremi.webs.com/>

8. 問合せ先

Glorious International E-mail : gi.premi@gmail.com

保世院 座狩屋 (ホセイン ザカリア, 三重大学大学院)

E-mail : zakaria@bio.mie-u.ac.jp

地域環境工学シリーズ7

地域に根づく“開発”とは：国際協力の現場から

— 日本の海外農業農村開発協力 — (社) 農業農村工学会発行

目次

まえがき

I. 海外農業農村開発協力の必要性

- 1. 海外の農業農村を取巻く諸問題
- 2. 農業農村開発協力の展開と課題

II. 日本の海外農業農村開発への取組み

- 1. 農業生産基盤整備への取組み
- 2. 環境問題への取組み
- 3. 農村社会開発
- 4. 国際的研究・協力

5. 農業分野における国民参加型の開発協力

6. 日本の農業農村開発協力の仕組み

III. これからの国際農業農村開発協力の展望

- 1. 持続可能な農業農村開発に向けてのアプローチ
- 2. 協力体制の強化

IV. ANNEX

- 1. 海外農業農村開発協力に携わる各機関等
- 2. 国際協力用語解説, 入門図書案内

A 5判 約200ページ 定 価3,300円 (内税・送料学会負担)
 会員特価2,900円 (内税・送料学会負担)
 [会員特価は, 個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
 (社) 農業農村工学会
 ☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494

地域環境工学シリーズ9

食の安全と地域の豊かさを求めて

— 新しい畑整備工学 — (社) 農業農村工学会発行

目次

I. わが国の畑作の歴史と特徴

- 1. わが国における畑作の歴史
- 2. 営農形態別の特徴
- 3. 畑整備の現状
- 4. 国際情勢, 社会情勢の変化
- 5. 中山間地域における畑整備

II. 畑整備の基礎

- 1. 作物と水
- 2. 畑地基盤と畑作農業

3. 畑地の整備手法

III. 畑整備の今後の展開方向

- 1. 畑整備における技術的課題
- 2. 新たな畑整備の展開

IV. 畑整備と地域環境管理

- 1. 土壌侵食防止
- 2. 持続的農業のための土管理
- 3. 畑作と環境保全
- 4. 環境との共存をめざした畑作の将来像

A 5判 約210ページ 定 価3,300円 (税込・送料学会負担)
 会員特価2,900円 (税込・送料学会負担)
 [会員特価は, 個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
 (社) 農業農村工学会
 ☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494